Def. Doc. #2636

Exhibit #

極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國其他

對

荒木貞夫　其他

宣誓供述書

供述者　山本熊一

自分儀我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ先ツ別紙ノ通リ宣誓ヲ爲シタルニ次ノ如ク供述シマス

Def. Doc. #2686

# 山本熊一口供書

一、私ハ一九四〇年（昭和十五年）九月以來外務省東亞局長ノ任ニ在リ翌四一年（昭和十六年）十月下旬ヨリハ亞米利加局長ヲモ兼任致シテ居リマシタ。從ツテ私ハ日米交渉ト關係ノ深カツタ陸海軍兩省ノ武藤岡、兩軍務局長トハ、常時極メテ緊密ナ連絡ヲ保持シテ居リマシタノミナラズ、當時ノ大本營、政府連絡會議ニモ外務省係官トシテ、隨時出席シマシタノデ、同會議ノ幹事デアリマシタ兩局長トハ、會議ヲ通シテモ接觸ノ機會ガ多クアリマシタノデ、自然兩氏ノ日米交渉ニ對スル努力ノ並々ナラヌモノガアリマシタ事ハ、能ク承知シテ居ルモノ一人デアリマス。

星野氏モ東條內閣ノ書記官長ニ就任ト共ニ連絡會議ノ幹事トナリマシタガ日米交渉ニ付テ私ハ殆ンド交渉シタコトハアリマセン。

二、更ニ大本營、政府連絡會議ニ於ケル幹事ノ任務ヲ說明シマス。

幹事ハ會議ニ關スル書記的事務、卽チ議案ノ準備及ビ說明又ハ整理並ニ關係資料ノ取纒メ等ノ事ヲ掌ツテ居リマシタ。

議案ノ準備トハ、連絡會議ノ審議ニ必要アリト認メラルル各種ノ[illegible]ニツキ研究作製セラレマシタ案ヲ會議ニ提出スル準備ヲ言フノデアリマス。

其案ハ幹事自身ガ作製スルノデハアリマセヌ。政府統帥部ノ固有ノ職域ニ於テ普通ノ事務系統ニ依リ作製サレマス。例ヘバ軍事ニ關スル事項ハ、陸海軍兩省、及統帥部ニ於テ、外交ヲ主トスル事項ハ、外務省ニ於テ、資源生産等ニ關スル事項ハ、企畫院ニ於テ之ヲ作成シタノデアリマス。之等ヲ取纒メテ會議ニ提出、配布スル事ガ準備デス。

又議案ノ整理トハ、提出サレタ議案ニ對シ活潑ナ意見ガ交換セラレ、愈々修正セラレマスノデ、是等ヲ整理スル事デアリマス。

連絡會議ノ決定ハ多數決デナク、列席者全員ノ意見ガ一致スル迄討議ガ續ケラレ、全員ノ意見一致ニ到達シタ後、列席者ガ署名スルコトニナッテ居マシタ。

前ニ述ベマシタ如ク、幹事ハ單ニ、會議ノ事務官トシテ出席スルノデアリマシテ、會議ノメムバートシテ出席スルノデハアリマセヌ。ソレ故ニ武藤、岡氏モ星野氏モ意見ヲ述ベ、裁決ニ加ハル權限ハ無ク又文書ニ署名スル權限モ勿論有リマセンデシタ。

三、東條首相ハ、同内閣成立直後開催セラレマシタ連絡會議ノ劈頭ニ於テ、「新内閣トシテハ、日米交渉問題ハ同年九月六日ノ決定ニ拘ハルルコトナク、全然白紙ニ立還ッテ全面的再檢討ヲ行フベキ旨」ヲ披露シ、爾來愼重ナル研究ガ續ケラレマシタガ、此間武藤局長ハ當ニ交渉妥結ヲ希望シ、稍々モスレバ戰爭本位ニ走ラントスル軍ノ一部ノ意見

調整ニハ相當苦慮シマシタ。

殊ニ昭和十六年十一月中、我方カラ米側ニ提案シマシタ甲案及乙案ノ作成ニ當リマシテハ、右ニ關聯シテ陸軍統帥部ノ一部デハ強硬ナ意見モアリマシタノヲ、武藤局長ノ盡力デ、漸ク取リ纏メ得タ次第ヲ、私ハ當時局長カラ聞イタコトガアリマス。

又武藤、岡、兩氏トシテハ、一々上司ノ裁決ノ他、統帥部ノ承認ヲ必要トシ、日常事務遂行ニハ、隨分人知レズ苦勞シテ居タ樣デアリマシタ。武藤氏ノ努力ニ付テハ、特ニ其感ヲ深クスルモノガアリマシタ。

兎ニ角、戰爭回避ノ爲ニハ、終始熱心ニ盡シタ事ハ、今猶私ノ印象ニ深ク殘ッテ居ル所デアリマス。

四、十一月五日、決定ノ我方案ハ、當時ノ日本ヲメグル政治的、經濟的、軍事的情勢ニ照シ、最モ公正デアリ、且日本ニトッテハ最大ノ讓歩案デアリマシタノデ、私共ハ米國側ノ理解ト歩ミ寄リトニヨリ、一日モ速カニ、平和ノ來タランコトヲ心カラ期待シ念願シテ居タノデアリマス。

而シテ十一月中旬頃、野村大使カラ、ルーズヴエルト大統領ガ日支間ノ橋渡シヲ提議シタトノ意味ノ報告ガアッタ前後ニ於キマシテ、私共ハ交渉ノ前途ニ相當ノ光明ヲ認メ、兩局長ト共ニ大イニ喜ビ勇ンデ妥結ノ場合ニ處スル準備ニ忙殺サレタ事ヲ記憶シテ居リマス。

Def. Doc. #2646

又當時政府統帥部間ニハ、豫メ日米交渉成立ノ際ハ、夫迄ニ執リマシタ非常措置ハ直チニ之ヲ停止シテ舊ニ復スルトノ明確ナル了解ガアリマシタガ、確カ十一月中旬頃カ、兩局長ハ私ニ對シ交渉妥結ト共ニ一切ノ非常措置ヲ直チニ停止スル樣、出先ノ軍ニ對シテモ徹底的ニ示達シ萬遺漏無キ樣最善ヲ盡シテ居ル旨ヲ語リマシタコトガアリマス。

Def. Doc. #2686

昭和二十二年（一九四七年）三月二十七日於東京

供述者　山本熊一

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明シマス

同日　於東京

立會人　原清治

Def. Doc. #2686

# 宣 誓 書

貴会ニ於ケル私ノ取扱シタ総ベテノ事柄ニ関シテ又何事ヲモ附加セザルコトヲ誓フ

（署名拇印）

出 本 熊 一